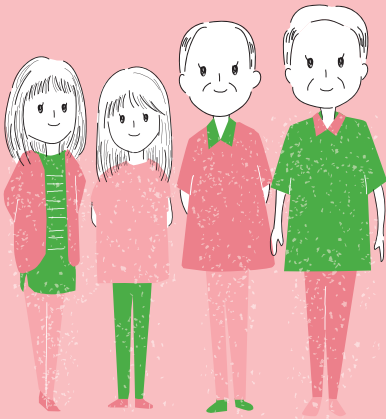


つながるスイッチ!! 久留米市社会福祉協議会

vol.26

支え合い推進会議—その⑰—「柴刈校区」の取り組み



地域全体で
災害を乗り越えたい!
防災に特化した団体
「災害支援隊」が発足!!

今回は「柴刈校区」をご紹介します。

柴刈校区まちづくり振興会

会長 高尾 博忠さん
たかお ひろただ

柴刈校区まちづくり振興会

事務局長 古賀 則人さん
こが のりひと

事務局 笠八重子さん
かさ やえこ

「災害支援隊」発足

令和5年7月豪雨を契機に、柴刈校区では、災害ボランティアセンター(※)とは別の校区独自の組織「災害支援隊」を発足しました。

(※)災害ボランティアセンターとは、災害による定規模以上の被害が発生した場合に、久留米市との協定に基づき、市社会福祉協議会に開設される、被災者の生活環境の回復を支援する拠点。

「令和5年7月の豪雨では、柴刈校区の東部を中心に床上浸水などの被害を受けました。今後、もしなにかあった時には、校区全体で助け合い災害を乗り越えていきたい、その想いが強くなり『災害支援隊』を立ち上げました」と、高尾さんは立ち上げに至った経緯を話されます。

支え合い推進会議での災害に特化した団体の立ち上げは市内でも初めて。

しっかり土台を作っておかなければならないと協議を重ね、市の防災対策課や市社会福祉協議会にも協力を依頼し、災害支援隊の運用マニュアル(以下「マニュアル」)を作成しました。

マニュアルの内容

- ・校区内で家屋の床上浸水、倒壊・半壊が概ね10戸以上の場合、まちづくり振興会理事会で過半数の承認を得て災害支援隊を立ち上げる。
- ・支援内容は、家財搬出・掃除とし、床下の土砂出しや専門的な内容は、災害ボランティアセンターへ相談・つなぐこととする。
- ・被災地が校区全域に及んだ場合は、隊は立ち上げない。(自宅の復旧が優先)

会長をはじめ、事務局、各自治会メンバーなどで構成される災害支援隊。マニュアルには、災害が発生してから立ち上げるまでの流れや、連絡網、役割などが細かく明記されています。災害発生時だけでなく、避難経路の安全確認、応急手当訓練実施など平常時の取り組みも記載されています。

令和6年7月1日、マニュアルが完成し、正式に「災害支援隊」が発足しました。「水害が起こると予測される時期の前に、なんとか完成させたかった。間に合ってほっとしています。マニュアルには『被害が校区全域に及んだ場合は、隊は立ち上げない』という一文があり

ます。あくまで自分の身は自分で守る、災害支援隊を立ち上げ活動することで新たな被害がおきてもいけないです」と高尾さんは話されます。



「災害支援隊」発足して 柴刈校区の今の動き

災害支援隊についてチラシを作成、校区内全戸に配布し住民にPR。「幸いなことにまだ災害支援隊の活動を必要とするような災害はおきていません。今のところ住民からの反応は多くありませんが、これから徐々に多くの住民に周知していけたらと思います」と古賀さん。

柴刈校区で「災害支援隊」が発足しました

令和5年7月豪雨では、久留米市東部を中心に大きな被害を受けました。全国各地で地震など様々な天災が発生しており、今後も発生する恐れがあることから、柴刈校区では「支え合い推進会議」(※)で協議し、災害時に支援する団体を立ち上げることになりました。

※支え合い推進会議：地域の課題などを把握し、その対策を考え行動につなげるための協議の場。46校区全てで設置。

◎こんなお手伝いをします

災害後の生活復旧が遅やかにできるように、災害ゴミなどの屋外への運び出し、家具や室内のふき掃除など


※床下の泥出しや、専門的な技術が必要とする場合は、お断りの場合があります

◎災害支援隊の立ち上げから支援までの大まかな流れ

- ①災害発生後、理事会で検討
- ②災害支援隊立ち上げの決定(自治会連絡協議会へ一斉連絡)
- ③各自治会自主防災部を通して、被害状況及び復旧支援に向けた必要数把握
- ④災害支援隊を派遣し支援を実施

【留意事項】
◎災害支援隊立ち上げに際して、一定の条件があり、隊を立ち上げない場合があります
◎災害支援隊の活動はボランティアとなっており、隊に対する謝礼・お礼などの用語は不要です。
◎隊の派遣においては、要請に添えない場合があります。

柴刈校区 公式LINE (お問い合わせ先)
柴刈校区支え合い推進会議
(柴刈校区まちづくり振興会)
連絡先：0943-72-0036



活動を通して 思うこと、 これからのこと

● 高尾さん
柴刈校区では「住みたいまちづくり」をスローガンに掲げています。これからも住民みんなが住んでよかった!と思ってもらえようよう尽力していききたいと思います。小学校の前で挨拶運動も行っています。校区のイメージアップになればと思います。災害支援隊については、実際にまだ災害が発生していないので見えていない部分、見直しの部分もたくさんあると思います。マニュアルもまだまだブラッシュアップしていききたいと思います。
今後は買い物難民の方々に向けた買い物支援にも取り組みたいです。

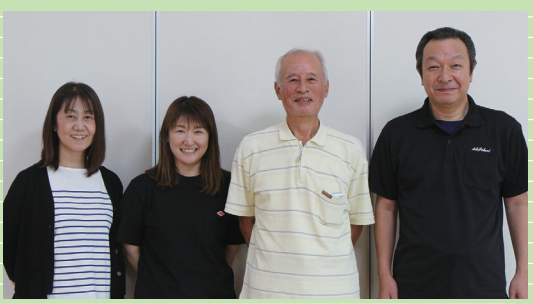
● 古賀さん
柴刈校区のためにやりたいことがたくさんあるので、頑張ります。校区内の連絡網の情報伝達がスムーズにいくように取り組んでいきたいです。今、連絡網を取り入れています。今、連絡網を取り入れています。今、連絡網を取り入れています。今、連絡網を取り入れています。

● 笠さん
柴刈校区の公式LINEを立ち上げたことにより、災害時の連絡がスムーズになり、情報伝達が迅速になりました。また、防災意識を高め、地域全体の防災力が向上しています。今後も定期的に自主訓練を行い、災害発生時の対応力を高めていきたいと思います。

上げました。校区のインスタグラムも定期的に発信しています。登録者数をもっと増やしたいです。情報発信をどんどんして、みんなが住みたいまち、楽しく住めるまちを目指して、校区のイメージアップに努めたいです。

取材を終えて

防災に特化した支援団体「災害支援隊」を立ち上げた会長をはじめとする柴刈校区の皆さん。前例のないことをするのはとても大変で難しかったのだろうと感じる取材でした。水害に遭い、「このままではいけない」「何かしないといけない」という熱い想いで進まれました。手探りの中、周りに助けられてマニュアルを作成することができたと安堵しながらも、まだまだ課題を探しブラッシュアップしなくてはと進み続ける力強さが印象的でした。



浅野 敬子さん、笠 八重子さん、高尾 博忠さん、古賀 則人さん
(コミセン事務局長)

高尾さんと古賀さんは仲良しで、とにかくお酒が大好き。「飲みニケーションしています」と、頻りに2人で飲みに行かれているそう。笠さんはカフェ巡りが趣味。素敵なカフェ情報があれば、福岡、佐賀など、遠方にも足を運んでいるそうです。

- 地域全体で助けあつて災害を乗り越えられる
- 令和6年7月、防災に特化した団体「災害支援隊」発足
- 「災害支援隊」のチラシを作成し、校区内全戸に配布
- マニュアルを作成し、細かくルール決め。今後もブラッシュアップしていく

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
TEL:0942-34-3035
FAX:0942-34-3090
メール:heartful@heartful-volunteer.net
HP:http://www.heartful-volunteer.net

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

[noteーつくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!
#久留米市 #社協 #地域 #福祉 #地域福祉 #支え合い #災害支援 #防災

つながるスイッチ!!は HPでも webマガジンでも掲載中

